

(2) 区のまちづくり目標

ア 区のまちづくり目標総括シート

区ごとに、

「取組みの方向性」

「区の人口・世帯動向」

を示すとともに、「取組みの方向性」に掲げる目標の実現に向けた

「現状と課題」

「今後の取組みの方向性」

をまとめるもの。

※「今後の取組みの方向性」には検討段階のものが含まれる。

※7区で共通する課題など全市的課題については、分野別目標の51施策の「施策評価」で整理されているため、「区のまちづくりの目標」では、区ごとの特性や独自の取組みに関する課題に絞ってまとめている。

イ その他

令和2年度を「R2n」、令和2年を「R2」等と表記している。

歴史と自然の魅力にあふれ、人が活躍し、活力を創造するまち・東区 ～住みやすいあんしんなまちづくりをめざして～

取組み の 方向性	○安全で安心して暮らせるまち ○子どもが健やかに育つまち ○人を大切にし、みんながいいきと活躍できるまち ○新しい都市機能を担い、活力を創り出すまち ○歴史・文化、自然の魅力を生かし、新しい可能性を生み出すまち
-----------------	---

区の人口・世帯動向

		年少人口（0～14歳）	生産年齢人口（15～64歳）	老年人口（65歳以上）	総数
H12	東区	40,553 (15.2%)	192,002 (71.9%)	34,448 (12.9%)	269,307
H17		38,850 (14.3%)	190,269 (70.2%)	42,065 (15.5%)	274,481
H22		41,272 (14.3%)	197,419 (68.4%)	50,090 (17.3%)	292,199
H27		43,380 (14.3%)	196,831 (65.1%)	62,089 (20.5%)	306,015
R2	全市	44,692 (14.1%)	201,989 (63.5%)	71,338 (22.4%)	321,728
		204,334 (13.0%)	1,014,233 (64.5%)	354,548 (22.5%)	1,603,043
		高齢者単独世帯数	単独世帯数	全世帯	＊R2人口は9.1時点の推計人口。 ＊総数には年齢不詳を含む。年齢 構成比算出にあたっては総数から 年齢不詳を除外。 （資料：国勢調査、福岡県人口移 動調査）
H12	東区	6,124 (5.4%)	46,878 (41.0%)	114,366	
H17		8,125 (6.9%)	47,262 (40.1%)	117,887	
H22		10,653 (8.0%)	56,811 (42.7%)	133,024	
H27		13,590 (9.6%)	61,734 (43.6%)	141,506	
	全市	80,032 (10.5%)	379,499 (49.7%)	763,824	

区のまちづくりの目標実現に向けた現状・課題と今後の取組みの方向性

安全で安心して暮らせるまち

現状と 課題	- 各校区における防災訓練や土のう整備とともに、地域の避難体制構築を支援しているが、近年は、大雨、台風などの災害が甚大化・長期化する傾向にあり、また新型コロナウイルス感染症への対応を含めると、区だけでは円滑な避難所運営が困難となってきた。そのため、避難所の開設・運営に関して地域と区の役割分担などを明確化・共有できる体制づくりが必要である。 - 地域の安全・安心マップの更新や、警察や地域と連携した飲酒運転撲滅運動などの市民啓発を実施しているが、近年多発しているニセ電話詐欺などの犯罪被害についても市民啓発が必要である。 また、放置自転車対策やごみ出しルールの啓発などモラル・マナーの向上に取り組んでいるが、依然としてごみの不適正排出が発生している。 - 生活道路の歩行空間等のバリアフリー化や交通安全施設の整備、改良が必要な道路整備を実施しているが、健全性・安全性を確保しつつ、施設の長寿命化を図る必要がある。
今後	- 自然環境や社会情勢の変化などにより複雑化する災害対応について、各校区における自助・共助の意識醸成を図るとともに、校区と区が連携した避難所開設・運営ができる体制を確立するなど、安全で安心して暮らせるまちづくりに向け、引き続き取り組んでいく。 - 地域における防犯活動への支援とともに、飲酒運転撲滅や多様な犯罪への対応については、地域や関係機関と協同で市民啓発などに取り組む。また、みんなが気持ちよく暮らせるためのモラル・マナーの向上に引き続き取り組んでいく。 - 安全で快適な生活基盤づくりのため、歩行空間の安全対策とともに、生活道路等のアセットマネジメントを推進する。

子どもが健やかに育つまち

現状と課題	・児童虐待の発生予防・早期発見・再発防止については、「東区要保護児童支援地域協議会」の取組みを基本とし、「東区子ども・子育てセーフティネットワーク」により、特に小児科、産婦人科やスクールソーシャルワーカーなどと連携し、積極的に情報共有や支援を行っている。 - 近年、児童虐待の相談・対応件数が増加するとともに、家庭問題の複雑化・多様化がみられるため、よりきめ細やかな対応が必要である。 - また、コロナ禍の長期化に伴い、児童の虐待リスクが高まる中、発生予防・早期発見がより一層必要である。 ・公園を地域住民との共働等により適正に管理するなど、子どもが安全に遊べる環境づくりを推進しているが、コロナ禍でスポーツ大会等の機会が減少しているため、新しい体験等ができる機会の提供が必要である。
今後	・長期化するコロナ禍を踏まえ、関係機関との連携をより一層強化するとともに、オンラインを活用した子育て相談を行うなど、引き続き子育て家庭の孤立化や児童虐待の発生予防・早期発見に取り組む。 ・公園等の適正な管理を引き続き行うなど、コロナ禍でも、子どもが安心して遊べる環境づくりや新しい体験等ができる機会を提供し、子どもが健やかに育つまちづくりを推進する。

人を大切にし、みんながいきいきと活躍できるまち

現状と課題	・少子高齢化等を背景として地域コミュニティの役割が高まる一方で、地域づくりの担い手が不足しているため、住民の地域活動への参加促進に向けた取組みを支援している。 - また、大学等の多様な主体が地域と連携する「共創」のまちづくりを推進するため、東区内の大学が有する知見やマンパワーを地域づくりに活かす取組みを行っている。 - コロナ禍においては、自治協議会や大学等の活動が縮小しており、より一層支援を図る必要がある。 ・高齢者が住み慣れた地域で自分らしい暮らしを続けられるよう、区内4つのブロックごとに医療機関・介護事業所・地域が連携し、地域包括ケアシステムの構築に向けた取組みを行っている。また、「よかトレ実践ステーション」の登録の推進など、住民の主体的な健康づくり活動を支援している。 - コロナ禍においては、医療機関や介護事業所等による地域福祉活動が制限されており、介護の重症化予防、フレイル予防の強化が必要である。
今後	・自治協議会等の地域活動の活性化へ向け、オンラインの活用等を含め、より一層支援を強化していく。また、大学や企業、地域等の様々な主体が連携して、活力あるまちづくりを行えるよう、各主体のニーズ把握やマッチングを行うなど、引き続き支援に取り組む。 ・住み慣れた地域で誰もが安心して暮らしていくことができるよう、医療・介護・地域等様々な主体が、コロナ禍においても見守り、支え合う仕組みづくりに引き続き取り組むとともに、特に認知症に関しては、若い世代を中心として理解がより深まるよう、取組みを強化していく。 - また、よかトレ実践ステーションの登録推進や活動支援の強化など地域全体で健康寿命の延伸を推進し、健やかでいきいきと暮らせる取組みを進めていく。

新しい都市機能を担い、活力を創り出すまち

現状と課題	・香椎駅周辺土地区画整理事業が R2n に完了した。 ・香椎駅周辺において、市民、地域、NPO、企業、行政で構成する「香椎賑わいづくりの会」を中心に、様々なイベント等を実施している。今後も界限性を活かした香椎駅周辺のまちづくりを地域等と共働で推進する必要がある。 ・アイランドシティ地区では、新たな住宅市街地の形成に伴い、人口が増加しており、良好なコミュニティを形成するための支援が必要である。 ・九州大学箱崎キャンパス跡地等においても、地域、大学、企業、行政が連携してまちづくりを推進する必要がある。
今後	・香椎駅周辺は、市民、地域、企業、行政等が連携を図りながら、賑わいのあるまちづくりを引き続き推進する。 ・アイランドシティ地区において、地域、企業、NPO、大学等様々な主体と連携し、新たな住宅市街地における共創のまちづくりへ向け、支援等に取り組む。 ・九州大学箱崎キャンパス跡地等において、グランドデザイン（H30.7 策定）に基づき、良好な市街地の形成と新たな都市機能の導入に向け、地域、大学、企業と連携しながら、未来に誇れるまちづくりに引き続き取り組んでいく。

歴史・文化、自然の魅力を生かし、新しい可能性を生み出すまち

現状と課題	・歴史や文化、自然など東区の魅力を多くの方々に知ってもらい、また実際に訪れてもらうことで、活力あるまちづくりを進めていくこととしており、イラストマップを用いたホームページの改訂など、さらなる魅力発信に取り組んでいる。 - また、コロナ禍の新しい生活様式として、身近な場所での余暇活動が重要になっており、様々な人たちのニーズに即した東区の魅力情報を効果的に発信する必要がある。 ・地域の賑わいづくりのため実施していた各種イベントが、新型コロナウイルス感染症の影響により中止となったが、安全に配慮したイベント等の実施により地域の賑わいを取り戻す必要がある。
今後	・区のホームページの他、市民との共働等により SNS 等を活用した効果的な情報発信を行うとともに、アンケート等で把握した市民ニーズに基づき、身近な場所での余暇活動の提案を行うことにより、東区の魅力・特色を生かしたまちづくりを推進する。 ・「なみきスクエア」を東区における芸術文化の拠点として、コロナ禍での新しい生活様式に即した「なみき芸術文化祭」など各種イベントを開催することにより、賑わいにあふれ、多くの人が交流し、芸術文化を感じられるまちづくりを推進する。

お互いが支え合い、安心して人が暮らし、
歴史と伝統が息づくまち・博多区

- 取組みの方向性
- お互いが支え合い、交流し、健やかに暮らせるまち
 - 安全で安心して暮らせるまち
 - 歴史と伝統を生かしたにぎわいのあるまち

区の人口・世帯動向

		年少人口（0～14歳）	生産年齢人口（15～64歳）	老年人口（65歳以上）	総数	
H12	博多区	22,249（12.3%）	133,247（73.8%）	24,958（13.8%）	180,722	
H17		22,015（11.6%）	138,342（73.1%）	28,898（15.3%）	195,711	
H22		21,276（10.4%）	148,740（72.8%）	34,371（16.8%）	212,527	
H27		21,491（10.0%）	151,343（70.4%）	42,134（19.6%）	228,441	
R2		22,545（9.7%）	161,907（69.8%）	47,520（20.5%）	245,437	
全市		204,334（13.0%）	1,014,233（64.5%）	354,548（22.5%）	1,603,043	
		高齢者単独世帯数	単独世帯数	全世帯	*R2人口は9.1時点の推計人口。 *総数には年齢不詳を含む。年齢構成比算出にあたっては総数から年齢不詳を除外。 （資料：国勢調査、福岡県人口移動調査）	
H12	博多区	6,794（7.5%）	48,177（53.1%）	90,776		
H17		8,286（8.4%）	54,166（55.0%）	98,573		
H22		11,512（9.3%）	79,610（64.2%）	124,070		
H27		15,030（10.8%）	92,551（66.8%）	138,629		
全市		80,032（10.5%）	379,499（49.7%）	763,824		

区のまちづくりの目標実現に向けた現状・課題と今後の取組みの方向性

お互いが支え合い、交流し、健やかに暮らせるまち

現状と課題	・単身世帯の割合が指定都市で最も高い福岡市（H27 国調：49.7%）にあって、博多区は7区で最も高い（同：66.8%）。また、5年間の現住所居住率が46.7%（H27 国調）と転出入者が多く、共同住宅（マンションやアパートなど）に住む世帯割合が87.6%（H27 国調）と都市型の地域であり、地域コミュニティの希薄化が見受けられる。 ・高齢者が増加しており、特に単身高齢者世帯が急増している。（H22 国調：11,512人→H27 国調：15,030人　5年間で約30%増） ・超高齢化社会を迎え、地域包括ケアシステム（高齢者が住み慣れた地域で安心して生活が続けられるための体制）の構築・推進が求められている。 ・転入者が多く核家族化・少子化が進み、また、様々なインターネット上の情報が氾濫する中、育児不安を抱えている子育て世帯が増えており、安心して子育てができる環境づくりが求められている。 ・特定健診受診率が市平均を下回っており（R2n 速報値：博多区 21.3%、福岡市 24.1%）、医療機関や地域住民と連携した受診率向上や生活習慣病予防・重症化予防による健康寿命の延伸が求められている。
今後	・地域の特色を生かした魅力ある地域づくりを支援するため、企業や団体、学校等との「共創によるコミュニティづくり」を推進し、併せて、住民同士の交流促進や、自治意識の醸成を図る。 ・地域包括ケアシステムの構築を目指し、医療と介護の連携強化、地域住民と医療・介護の専門職との連携による支え合い・助け合いの仕組みづくりを推進する。 ・保育施設等の情報収集に努め、相談者に対して適切に情報提供を行う。また、子育てに関する相談・支援体制を強化し、児童虐待の防止・早期発見・早期対応を行う。 ・若い世代からの健康づくりや、生活習慣病重症化予防の取組み、がん検診の受診勧奨を推進する。

安全で安心して暮らせるまち

現状と課題	・校区（地区）防災組織においては、近年の大規模災害の発生を受け、地域防災に対する意識や自主的な活動の広がりも見えてきているが、地域によってその内容に濃淡があり、地域の実情に応じた支援をしていく必要がある。また、避難所運営について、地域住民・施設管理者・市職員が一体となり、感染症対策を踏まえて進めていく必要がある。 ・交通事故発生件数及び犯罪認知件数は７区で最も多くなっており、事故や犯罪が少ない安全なまちづくりが求められる。また、悪質な客引きの増加により博多駅筑紫口周辺の治安悪化が懸念されている。 *交通事故発生件数(R2)：1,412件（前年比352件減） *犯罪認知件数(R2)：2,582件（前年比853件減） ・自転車の放置台数が７区で最も多く、特に博多駅周辺や中洲地区に多く見られる。 *自転車の放置率(R2.10)：1.9%（前年同月比0.4ポイント減） ・生活道路について、損傷が激しい箇所数は７区で最多となっており、博多区に約４割が集中していることから、計画的な維持修繕が必要である。
今後	・地域防災については、地域の実情に応じた防災研修・訓練等を校区（地区）や町内会を対象に博多消防署と連携し実施する。また、感染症対策を踏まえた避難所運営については、関係者合同研修会やシミュレーション訓練等を行い、感染症対策や避難所運営資機材の使用方法について習熟を図り円滑な避難所運営を進めていく。 ・博多警察署、市民局と連携し地域の防犯リーダーに対する防犯研修会、防犯教室の開催、交通安全教室の開催や地域への物資支援、情報提供など地域の防犯活動の支援、交通安全思想の普及を行う。 ・悪質な客引きを許さない環境を醸成していくため、市民局、地域、関係機関と連携し、街頭啓発、キャンペーン等を実施する。 ・歩行空間や交通安全施設の整備など、安全で快適な生活基盤の整備を実施する。 ・路面シート（自転車放置禁止区域）の貼付、6か国語表記駐輪場案内チラシ及び街頭指導等により、博多駅周辺や中洲地区において自転車利用者への指導・啓発を行い、放置自転車の即日撤去により、放置自転車を減少させる。また、既設駐輪場の利便性向上や新たな駐輪場の整備を進める。 ・「福岡市生活道路アセットマネジメント基本方針」（H26.3策定）に基づき、道路施設の点検・修繕を計画的に行うことで、施設の延命化を図るとともに、費用対効果の高い施設の維持・管理に取り組む。

歴史と伝統を生かしたにぎわいのあるまち

現状と課題	・寺社や名所旧跡、伝統ある祭り、伝統工芸など優れた歴史文化資源が多数存在する博多旧市街エリアにおいて、これらを生かした事業に取り組み、その魅力を大きく高めてきた。また、九州新幹線全線開通以降、H28のKITTE博多、JRJP博多ビルに至る一連の再開発や、エリアマネジメント団体による賑わいの創出などにより、来訪者が大きく増加している。今後も、地域と連携し、回遊性の向上や歴史文化資源の魅力の発信力強化を図っていく必要がある。 *博多ガイドの会案内人数（R2n） 定点ガイド1,810人、派遣ガイド155人、地域密着型企画ガイド197人 *博多旧市街ライトアップウォーク延べ入場者数の推移 H25：91,101人、H26：124,521人、H27：116,214人、H28：113,610人 H29：120,724人、H30：124,853人、R1：97,691人、R2：中止
今後	・歴史や伝統文化を生かした博多旧市街ライトアップウォークの開催や、歴史的景観と調和の取れた道路整備など博多旧市街プロジェクトを推進し、集客力や回遊性の向上を図る。 ・博多ガイドの会によるまち歩き事業の充実や、博多の情報発信を行うなど、地域・企業・行政が連携し魅力の向上や地域の活性化に取り組む。

人が集い、人が輝き、人がやさしいまち「中央区」
～にぎわい・元気・安心がつながるまちをめざして～

取組み の 方向性	○自然、歴史、地域の魅力を生かした、にぎわいのあるまち ○思いやりの心で人がつながり、元気に暮らせるまち ○誰もが安心して暮らせるまち
-----------------	---

区の人口・世帯動向

		年少人口（0～14歳）	生産年齢人口（15～64歳）	老年人口（65歳以上）	総数
H12	中央区	16,380 (10.9%)	115,013 (76.2%)	19,478 (12.9%)	151,602
H17		17,043 (10.5%)	122,962 (75.4%)	22,974 (14.1%)	167,100
H22		17,562 (10.1%)	127,849 (73.8%)	27,724 (16.0%)	178,429
H27		19,531 (10.5%)	133,279 (71.5%)	33,581 (18.0%)	192,688
R2	全市	20,642 (10.4%)	139,097 (70.1%)	38,590 (19.5%)	204,588
		204,334 (13.0%)	1,014,233 (64.5%)	354,548 (22.5%)	1,603,043
		高齢者単独世帯数	単独世帯数	全世帯	*R2人口は9.1時点の推計人口。 *総数には年齢不詳を含む。年齢構成比算出にあたっては総数から年齢不詳を除外。 （資料：国勢調査，福岡県人口移動調査）
H12	中央区	5,683 (6.9%)	47,521 (57.6%)	82,522	
H17		6,848 (7.4%)	54,284 (59.0%)	91,929	
H22		9,473 (8.9%)	67,499 (63.2%)	106,825	
H27		11,893 (10.2%)	73,677 (63.5%)	116,063	
	全市	80,032 (10.5%)	379,499 (49.7%)	763,824	

区のまちづくりの目標実現に向けた現状・課題と今後の取組みの方向性

自然、歴史、地域の魅力を生かした、にぎわいのあるまち

現状と課題	・都心部の魅力を生かした回遊性の向上のため、エリアマネジメント団体「We Love 天神協議会」や地域と共働でまちのにぎわい創出や魅力向上を図っているところであるが、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、イベントやまちづくり活動の中止など、これまでの取組みから大幅な変更となっていることに加え、特に天神エリアにおいては、天神ビッグバンによるビル建替えに伴う商業施設等の閉鎖が進んでいることから、活動が停滞しないよう、創意工夫しながら活動を進めていく必要がある。 ・地域のまちづくりを継続支援し、地域の特性を活かした回遊性の向上に向けた更なる取組みが必要である。 ・セントラルパーク基本計画を踏まえ、福岡城跡や鴻臚館跡等の歴史・文化資源について、観光資源としての魅力を向上させる必要がある。
今後	・「We Love 天神協議会」と連携し、天神ビッグバンや新型コロナウイルスの影響等による変革を見据えたまちの魅力向上の取組みを進める。 ・コロナ禍での地域のまちづくり団体等の実情・ニーズを把握のうえ、地域の個性を活かした取組みを支援する。 ・福岡城跡や鴻臚館跡等の魅力を観光資源として活用し、コロナ禍における福岡城・鴻臚館まつりの開催支援を行うとともに、幅広い層の地域住民や来街者に歴史・文化資源の魅力をPRしていく。

思いやりの心で人がつながり、元気に暮らせるまち

現状と課題	・転出入者が多く、地域活動の担い手が不足・固定化の傾向が見られる中、新型コロナウイルス感染症の影響で、地域コミュニティ活動が十分に行えない状況にある。 ・区の高齢化率は約 19.3%（R3.3 月末）であり、高齢者単独世帯は 10.2%（H27 年国勢調査）となっており、上記「区の人口・世帯動向」からも増加傾向にあるため、高齢者等を地域で支える仕組みの構築が急務であり、健康維持や日常からの支援体制の確立が必要となっている。 ・転出入者が多く、孤立しがちな子育て家庭の負担感・不安感の解消を図るために、地域での子どもの見守りを充実させ、安心して子どもを生み育てることができる環境づくりが必要である。
今後	・公民館じょいんとプロジェクト（公民館とNPO等が共働で実施する事業）や公民館フェスタ、地域デビュー応援事業等、オンラインでの実施手法も取り入れながら、地域活動への参加促進と、顔の見える関係づくりを進めるとともに、新たな担い手の発掘を支援する。 ・住まい、医療、介護、予防、生活支援が一体的に提供されるシステムづくりを推進する。 ・健康に対する啓発活動の実施とともに、介護予防の拠点づくり事業（よかトレ実践ステーション創出）のさらなる推進を図る。 ・母子何でも相談、安心子育て応援セミナー等の実施や子育て応援ホームページによる適切な情報発信により、子育て支援の充実を図る。

誰もが安心して暮らせるまち

現状と課題	・警固断層の大規模地震や集中豪雨等大災害が発生した際に、自身や家族を守る自助の取組みのほか、災害弱者への安否確認や避難行動支援を的確に行うために、地域による災害弱者への日頃の見守り活動の充実を図るなど、誰もが安心して暮らせる共助のまちづくりを推進する必要がある。 ・放置自転車対策として日曜・祝日や 19 時以降の撤去についても実施しているが、対策の手を緩めると直ぐに放置自転車が増加する傾向にあるため、継続して撤去を実施していく必要がある。 ・肉の生食に起因する食中毒やイベント等における食中毒が発生しており、消費者や事業者の食の安全に関する正しい知識が十分に浸透していない状況にあるため、知識と理解を深める取組みが必要である。
今後	・共助のまちづくりを推進するため、災害時避難行動要支援者名簿を活用した、地域による見守りマップ等個別計画策定への支援等を行い、日頃の見守り活動の充実を図る。また、地域と施設管理者等の連携による避難所開設・運営訓練の支援を実施する。 ・道路利用者の安全で快適な通行空間を確保するため、放置自転車対策を継続して実施していくとともに、放置自転車対策業務の包括的民間委託など、より効果的、効率的な業務手法について検討を行い、人と自転車が共生できるまちづくりを推進していく。 ・食の安全・安心プロモーションを活用した市民啓発を推進していく。

いきいき南区　くらしのまち ～身近な自然とふれあい　みんながつながり支え合う～	
取組み の 方向性	○人のつながりや交流が大切にされ、地域で支え合い・助け合うくらしやすいまち ○みんなにやさしい、安全で安心して住み続けられるまち ○那珂川やため池、油山などの自然がさらに身近に感じられる うるおいとやすらぎのあるまち ○大学や隣接地域との連携・交流や文化活動などが盛んで、活気あふれるまち

区の人口・世帯動向

		年少人口（0～14歳）	生産年齢人口（15～64歳）	老年人口（65歳以上）	総数
H12	南区	35,937（14.8%）	174,163（71.7%）	32,830（13.5%）	243,039
H17		34,007（13.8%）	173,480（70.6%）	38,204（15.5%）	246,367
H22		33,528（13.6%）	167,308（68.0%）	45,186（18.4%）	247,096
H27		34,626（13.7%）	163,562（64.5%）	55,430（21.9%）	255,797
R2	全市	36,057（13.7%）	164,806（62.7%）	62,030（23.6%）	265,063
		204,334（13.0%）	1,014,233（64.5%）	354,548（22.5%）	1,603,043
		高齢者単独世帯数	単独世帯数	全世帯	*R2人口は9.1時点の推計人口。 *総数には年齢不詳を含む。年齢構成比算出にあたっては総数から年齢不詳を除外。 （資料：国勢調査、福岡県人口移動調査）
H12	南区	6,613（6.3%）	42,016（40.0%）	104,999	
H17		7,514（6.9%）	43,813（40.3%）	108,734	
H22		9,892（8.8%）	46,220（41.2%）	112,306	
H27		13,798（11.5%）	51,553（43.1%）	119,487	
	全市	80,032（10.5%）	379,499（49.7%）	763,824	

区のまちづくりの目標実現に向けた現状・課題と今後の取組みの方向性

人のつながりや交流が大切にされ、地域で支え合い・助け合うくらしやすいまち	
現状と 課題	・少子化の中で、母親が子育てに不安・負担を感じて孤立化することがないよう、安心して生み育てられるための施策や、子どもが健やかに育つための施策が求められている。 ・南区は、25校区中19校区が高齢化率20%を超え、うち5校区が30%以上となっており、高齢者単独世帯数の割合が11.5%（H27）と7区中最も高い。高齢者が心身ともに健康で社会と繋がりを持って暮らせるよう支援する施策がますます重要である。 ・高齢者がいつまでも住み慣れた地域で暮らしていけるよう、医療や介護、生活支援などが一体的に提供される「地域包括ケアシステム」の構築が重要である。 ・地域活動の担い手不足が顕在化しており、地域のネットワークや事業者等の多様な主体が持つ資源を、地域課題の解決や地域の活性化につなげる共創の取組みが必要となっている。
今後	・新米ママ向けの親子セミナー等や、発達が気になる子どもと親が集えるサロンの開設など、育児不安を軽減し、孤立化や虐待を予防するとともに、子育て情報の提供などに取り組む。 ・健康寿命の延伸に向け、南区薬剤師会の協力により、よかトレ実践ステーション（施設版）等を創出し、住民の主体性を活かした健康づくり・介護予防の体制づくりを進める。また、高齢者の見守りなど生活支援の充実や、在宅医療の推進、認知症に係る施策に取り組む。 ・地域活動の担い手や集う場の不足、移動手段等の課題解決のため、地域と医療・介護事業所等ネットワークの連携を支援する。 ・地域における具体的な課題を把握し、企業や大学が持つ、人・モノ・専門知識等の資源を活かすとともに、地域の中で活動の担い手となる人材を育成し、地域課題の解決や地域活性化につなげる。

みんなにやさしい、安全で安心して住み続けられるまち

現状と課題	・南区居住者の約 23.6%が 65 歳以上の高齢者であり、外国人もこの 10 年間で約 1.9 倍に増えているため、災害時における支援の仕組み構築が課題である。 ・南区では、刑法犯認知件数（R1n 中 1,561 件 → R2n 中 1,117 件）は年々減少しており、犯罪の少なさに満足している住民の割合は R1n 66.5%→R2n 68.1%（福岡市新基本計画の成果指標に関する意識調査：行政区別(南区)）に増加しているものの、より一層の地域防犯力の向上を目指す必要がある。また、R2n 中の自転車による交通事故発生件数は 261 件（南区）で県下ワースト 2 位となっており、自転車を中心とした交通安全啓発活動が急務である。 ・H30.12 に入管法が改正され、居住外国人のさらなる増加が見込まれるなか、地域住民と居住外国人の相互理解がまだまだ進んでおらず、早急な対策が必要である。
今後	・災害時における高齢者や外国人などの要配慮者の安全確保のため、地域と共働で防災意識の醸成、組織や従事者の育成、訓練などに取り組む。また、ワークショップやセミナーなどを通じて先進的な地域の取り組み事例を紹介し、校区間の情報共有を図り、全体の意識向上につなげる。また、外国人や高校生などを、災害時に支える側の人材として育成する。 ・警察などとさらなる連携強化を図り、地域ニーズに合わせた地域防犯活動の支援や、防犯パトロール、性犯罪防止活動、交通安全運動などの啓発活動に取り組む。 ・日本語学校等の留学生等を対象に、生活面にかかわる「ごみの正しい出し方」「自転車の交通マナー」についての出前講座や、「税」に関する広報活動などを実施するとともに、地域住民と居住外国人の相互理解を深める交流事業を実施する。

那珂川やため池、油山などの自然がさらに身近に感じられるうるおいとやすらぎのあるまち

現状と課題	・住民に水辺や緑などの自然の魅力を発信することで、自然環境の豊かさと地域の魅力を身近に感じてもらうことが重要である。
今後	・区の魅力スポットを紹介したマップやカレンダーを配布することで身近な自然を発信するとともに、鴻巣山でのワークショップを実施し自然に触れる機会を創出する。

大学や隣接地域との連携・交流や文化活動などが盛んで、活気あふれるまち

現状と課題	・区及び周辺部の 7 つの大学と包括連携協定（H28.12）を締結し、合同イベントとして「南区こども大学」を H29n から実施している。また、大学の先生が地域に出向いて行う「南区出前講座(大学版)」を、H16n から実施している。今後、地域課題の解決につながる新たな連携事業を促進する必要がある。（R2n：8 件） ＊「南区こども大学 2020」（中止） ＊「南区出前講座(大学版)」(7 講座実施、参加者数 134 人) ・西鉄天神大牟田線から遠い区西南部地域では、公共交通の利便性向上など、地域の活性化に向けた取り組みが求められている。
今後	・「南区こども大学」や「南区出前講座(大学版)」などの実施により、地域に開かれた魅力ある大学づくりを進めるとともに、大学や短大が持つ専門性や人材等が地域課題の解決につながるような、新たな連携・交流を大学、地域に提案する。 ・地域拠点である長住・花畑地域を含む区の西部・南部地域を中心としたバス交通の円滑化を図るため、既存バス路線における交差点改良やバスカットの整備に取り組み、地域の現状や課題、ニーズ等を整理し、地域特性に応じた活性化策について検討する。

豊かな暮らしがあるまち・城南区 ～大学・自然と共生し、地域で支え合う安全で安心なまちづくり～	
取組みの方向性	○安全で安心して暮らせるまち ○地域で支え合う、ぬくもりのあるまち ○地域と大学が共生するまち ○自然環境を大切にするまち

区の人口・世帯動向

		年少人口（0～14歳）	生産年齢人口（15～64歳）	老年人口（65歳以上）	総数
H12	城南区	16,704（13.3%）	92,827（73.8%）	16,212（12.9%）	126,468
H17		16,281（12.7%）	92,145（72.0%）	19,483（15.2%）	128,663
H22		16,495（12.9%）	88,231（69.1%）	22,940（18.0%）	128,659
H27		16,837（13.0%）	84,258（65.2%）	28,215（21.8%）	130,995
R2		16,888（12.9%）	82,245（62.6%）	32,291（24.6%）	133,097
	全市	204,334（13.0%）	1,014,233（64.5%）	354,548（22.5%）	1,603,043
		高齢者単独世帯数	単独世帯数	全世帯	*R2人口は9.1時点の推計人口。 *総数には年齢不詳を含む。年齢構成比算出にあたっては総数から年齢不詳を除外。 (資料：国勢調査、福岡県人口移動調査)
H12	城南区	3,381（5.7%）	28,349（47.9%）	59,194	
H17		4,132（6.8%）	28,615（47.2%）	60,655	
H22		5,275（8.5%）	29,678（47.7%）	62,189	
H27		7,206（11.2%）	31,533（48.9%）	64,511	
	全市	80,032（10.5%）	379,499（49.7%）	763,824	

区のまちづくりの目標実現に向けた現状・課題と今後の取組みの方向性

安全で安心して暮らせるまち

現状と課題	・新型コロナウイルス感染症の拡大防止を図るため、各避難所における受入れ可能人数を制限していることから、一時避難所（公民館）だけでは収容人数が不足し、早期に収容避難所（小学校等）を開設しなければならない可能性が高まっている。 ・コロナ禍においても避難所開設を円滑に進めることができるよう、施設管理者と事前協議を行い、使用可能なエリア等を定めている。これらについては、今後も継続的に現状確認及び見直しを行い、情報共有を続けていく必要がある。 ・避難所の開設・運営については、地域・行政・施設管理者の三者共働による運営体制の確立に向けて、今後も引き続き三者の連携を進めていく必要がある。 ・城南区における刑法犯認知件数は年々減少傾向にあり、R2においては720件と前年に比べ165件の減となっている。しかしながら、近年は高齢者を狙ったニセ電話詐欺が増えており、区職員を騙る事案も発生していることから、これまでの取り組みに加え新たな犯罪に対する取組みを強化していく必要がある。 ・核家族化、都市化等から身近に支援者がいない家庭が増加しており、夫婦が協力して育児を行うことは大変重要である。父親が子育てに積極的に取り組み、男女差による違いを認識した夫婦コミュニケーションを大切にすることで、母親のストレスや育児負担感の軽減を図り、育児不安や児童虐待の未然防止を図ることが必要である。
今後	・災害が発生し避難所を開設する場合には、新型コロナウイルス感染症の状況を踏まえ、感染症対策に万全を期する。 ・避難所開設を迅速に行えるよう避難所運営職員と、地域とが協力した避難所開設体制の構築を推進する。 ・地域・行政・施設管理者が参加する避難所開設訓練の内容を充実させることにより、三者の連携強化を図る。 ・新型コロナウイルスワクチン接種に便乗した詐欺など、高齢者を対象としたニセ電話詐欺に関する注意喚起、地域における防犯パトロール活動の支援、防犯強化月間における街頭キャンペーンの実施などを通じて、犯罪のない安全で住みよいまちづくりの実現に向けた取組みを推進する。 ・新型コロナウイルスの影響により在宅で過ごす時間が長くなったことで、より一層、夫婦コミュニケーションが重要になっているため、父親の育児参加や夫婦コミュニケーションの大切さを啓発するため作成したリーフレットを母子健康手帳交付時に配付する。

地域で支え合う、ぬくもりのあるまち

現状と課題	・城南区では全市平均を上回る高齢化の進展により独居や認知症の方も多く、高齢になっても住み慣れたまちで安心して住み続けられるように、地域で支え合うまちづくりが必要である。
今後	・超高齢化社会に対応するため、新型コロナウイルス感染症のもとでの新しい生活様式を踏まえつつ、地域活動を担う人材の育成支援、地域の見守りネットワークの強化など、地域で支え合うまちづくりを推進する。 ・新型コロナウイルス感染症の発生動向に対応した手法で、各種地域ケア会議を開催し、地域と専門職の繋がりや支援体制の構築を推進する。また、多職種連携研修会を医師会共催で開催し、医療と介護の連携体制を強化する。 ・認知症になっても住み慣れた地域で安心して生活できるように、認知症の方やその家族に早期に関わる認知症初期集中支援チームの活動を推進していく。 ・市が推奨する高齢者の健康づくり・介護予防に効果的な運動「よかトレ」を、継続して実践する団体を「よかトレ実践ステーション」として認定し、活動を支援するとともに、より多くの高齢者が身近な場所で取り組むことができるよう創出及び継続支援を行う。 ・特定健診の受診率向上を図るとともに、健診結果に応じた保健指導を実施し、生活習慣の改善や重症化予防を目指す。

地域と大学が共生するまち

現状と課題	・区内にある福岡大学、中村学園大学の学生数約2万4千人は、区人口の約2割に相当し、若い学生の活力は地域に活気をもたらすが、新型コロナウイルス感染症の影響により、地域と大学、住民と学生の交流事業が大幅に減少していることから、新しい生活様式を踏まえた手法による交流を促進する必要がある。
今後	・新しい生活様式を踏まえた「はなれても、つながる地域の絆づくり」として、区役所と大学の連携や住民と学生の交流を促進するとともに、地域における活動団体等も含めたネットワークを維持し、多様な主体が地域課題に取り組む共創によるまちづくりを推進する。

自然環境を大切にするまち

現状と課題	・区域を貫流する樋井川、区域の南部に位置する油山など、市民自らが自然環境を守り育てる活動を支援し、住みやすい環境づくりに生かすことが必要である。 ・新型コロナウイルス感染症により、人が密集しない、自然環境下で行う活動のニーズが高まっている。
今後	・樋井川や油山の地域活動団体等と連携し、自然を学びながら楽しく体を動かすことができる自然観察会等を企画・実施して、FitnessCity構想の「住むだけで健康になる」まちづくりと、自然環境を大切にするまちづくりを両輪で推進する。

ひと・みず・みどりが光り輝く「早良区」 ふれあいと交流のあるまち

取組み
の
方向性

- お互いが支え合い安心して暮らせるまち
- 早良区の特性を生かした魅力あるまち
- 地域の魅力を生かしたまち
 - ◆～活力とにぎわいのあるまち～ 北部
 - ◆～地域の新しい拠点となるまち～ 中部
 - ◆～豊かな自然を生かした市民の憩いのまち～ 南部

区の人口・世帯動向

		年少人口（0～14歳）		生産年齢人口（15～64歳）		老年人口（65歳以上）		総数			
H12	早良区	32,337（15.9%）		145,141（71.5%）		25,570（12.6%）		203,656			
H17		31,417（15.0%）		145,996（69.8%）		31,730（15.2%）		209,570			
H22		31,510（14.9%）		142,113（67.4%）		37,234（17.7%）		211,553			
H27		32,653（15.1%）		137,689（63.6%）		46,110（21.3%）		217,877			
R2		32,723（14.9%）		134,519（61.3%）		52,275（23.8%）		220,919			
		全市		204,334（13.0%）		1,014,233（64.5%）		354,548（22.5%）		1,603,043	
		高齢者単独世帯数		単独世帯数		全世帯		*R2人口は9.1時点の推計人口。 *総数には年齢不詳を含む。年齢構成比算出にあたっては総数から年齢不詳を除外。 （資料：国勢調査，福岡県人口移動調査）			
H12	早良区	4,687（5.8%）		26,881（33.0%）		81,425					
H17		6,181（7.1%）		30,195（34.9%）		86,621					
H22		7,467（8.3%）		32,128（35.6%）		90,134					
H27		10,299（10.8%）		36,104（37.8%）		95,617					
		全市		80,032（10.5%）		379,499（49.7%）		763,824			

区のまちづくりの目標実現に向けた現状・課題と今後の取組みの方向性

お互いが支え合い安心して暮らせるまち

現状と
課題

- ・近年の記録的豪雨や台風など、自然災害の甚大化・頻発化が著しく、住民一人ひとりが正確な知識を身につけ、安全な行動をとる必要がある。R2nは13校区において、計23回の講座・訓練を実施した。
- ・核家族化、地域コミュニティにおける住民同士のつながりの希薄化などの社会状況の変化により、地域において子育て家庭が孤立化、さらには感染症拡大防止のための閉鎖的な生活を余儀なくされている現状がある。子育てへの不安感を軽減し、産後うつ、児童虐待、発達障がいなど、支援を要する保護者や子ども、家庭をめぐる問題に対応する必要がある。
- ・保健所窓口での母子健康手帳の交付、妊婦との面接を行う中で把握した支援が必要な妊婦や家庭について、子育て世代包括支援センター関係課が連携協力し、さらなる支援の充実に努めていく必要がある。
- ・健寿社会の実現に向け、市民の主体的な健康づくりを進めていく必要がある。
- ・健康づくりに役立つレシピを公募して作成した「サザエさん通り食育レシピ集」全4集を有効に活用し、食育を推進していく必要がある。
- ・新型コロナウイルス感染症の流行により早良区のR2nd特定健診受診率は、26.6%と低下しており（前年度28.0%）、福岡市が設定した目標値（40%）に向け、受診率向上の啓発活動を改めて強化する必要があるが、新型コロナウイルス感染症の現状も考慮する必要がある。
- ・超高齢社会が到来し、高齢者人口が増え続ける中、平成26年度から公民館・地域と専門職の共創による地域包括ケアシステム推進に取り組んでいる。令和2年度からは、「地域包括ケア関連講座」、「オーラルフレイル予防事業」を新たに開始した。これまでの取組みにより、地域における同システムへの認識は浸透してきているが、一過性のものとならないよう、今後とも継続した取組みが必要である。
- ・「人生100年時代」の到来を見据えて、定年退職後に必要な情報提供を行うとともに、地域活動に参加しやすいきっかけづくりにより、地域活動の担い手不足解消などへつなげていくことが求められている。

今後	・町内会や各種団体等地域の特性やニーズに応じ、形式にとらわれない防災講座・訓練を実施し、住民の主体的な避難行動を促進する。 ・発達が気になる子どもと、その保護者のための子育てサロン「もちもち」の開催や、子育て情報誌・子育て情報マップの配布、「さわらっ子育て応援ホームページ」での情報発信などにより、子育て世代の不安を軽減するとともに、子育てを応援する。また、児童虐待防止の研修や、子どもが様々な暴力から自分の心とからだを守る「子どもへの暴力防止プログラム（CAP）」を実施し、児童虐待防止のための啓発を行う。 ・子育て世代包括支援センター関係各課の（新たに設置される子ども家庭総合支援拠点を含めた）連携をより強固に行い、妊娠期から出産・子育て期にわたる切れ目のない支援の充実を図る。また感染症拡大防止のため母子事業が制限され、実施体制が変更している中、各家庭への新しい生活様式に即した支援体制を検討・強化していく。 ・早良区南部地域の自然や食の魅力と医療・介護ネットワーク等を活用したツーリズムを企画・実施し、早良区南部地域の魅力発信と市民の主体的な健康づくりの機運醸成を図る。 ・「サザエさん通り食育レシピ集」のメニューを飲食店で提供してもらうことにより、食育に関する認知度を高め、より効果的に食育を推進していく。 ・特定健診の受診率向上について、区役所関係課のプロジェクトチームで協力しながら、新型コロナウイルス感染症の状況に応じた受診率向上に向けた活動を引き続き行っていく。 ・地域包括ケアシステムの推進については、公民館、地域団体、専門職とともに「地域包括ケア関連講座」を実施。大学や歯科医師会も加えた「オーラルフレイル予防事業」等、介護予防、認知症、在宅医療・介護に関する啓発を今後も継続して実施し、オンライン等の活用も検討する。 ・大学や歯科医師会との共創により、「口腔ケア」を通じて介護予防の取組みを推進する。 ・定年後の新たなステージの応援の一環として、「シニアのための智慧袋」を活用した地域活動への関心を高める情報提供を行うなど、地域の担い手確保に取り組む。
----	--

早良区の特性を生かした魅力あるまち

現状と課題	・早良区を代表する脊振山系や室見川などの豊かな自然を保全し、次世代へ引き継いでいく必要がある。 ・H24.5に地域の要望のもと誕生した「サザエさん通り」を生かしたまちづくりや、南部の“実りの秋”の魅力発信をする「さわらの秋」など、早良区の魅力を生かした地域活性化に取り組む必要がある。
今後	・脊振クリーンアップ登山をはじめとする脊振自然遺産事業や、室見川水系一斉清掃などの活動を通し、市民の環境保全意識の向上を図る。 ・「サザエさん通り」の認知度向上やさらなる地域活性化のため、H25nに策定した構想に基づき、ハード・ソフト両面からの施策の充実や広報の強化を官民共働で行う。 ・「さわらの秋」事業をはじめとして、早良区の魅力について、区内外の住民への認知度を高めるための広報戦略や地域資源のブランド化に取り組む。

地域の魅力を生かしたまち

現状と課題	・早良区南部地域は豊かな自然や産業、歴史などの地域資源に恵まれる一方、少子高齢化や人口減少など、地域の活力低下が懸念されており、地域や行政が共創で南部地域の魅力を生かしたまちづくりを推進する必要がある。 ・R3.11に開館予定である早良南地域交流センターについては、早良区北部及び南部地域からの交通アクセスが充実していないため、関係局と連携し、改善を図る必要がある。
今後	・地域、団体、行政等が一体となった早良南部地域の課題解決に向けた取組みである「早良みなみ塾」を通し、自治協間の連携強化、早良南部コミュニティの一体化、人材・資源の活用促進を図るとともに、地域の魅力を生かした地域主体の取組みを支援する。 ・早良南地域交流センターの交通アクセスの向上については、公共交通機関の充実等を関係局、自治協議会と連携し、交通事業者に働きかけを行うなど、改善に向けて取り組む。

自然と大学の知を生かし、安全で安心して、生き生きと暮らせるまち・西区
～「自然・市民・大学」の3つの宝を磨きあげる～

- 取組みの方向性
- 自然を生かし、環境にやさしいまち
 - にぎわいと楽しさがあり、地域が支え合う、生き生きと暮らせるまち
 - 大学の知と人材を取り込んだ創造性に富むまち
 - 子どもから高齢者まで、安全で安心して暮らせるまち

区の人口・世帯動向

		年少人口（0～14歳）	生産年齢人口（15～64歳）	老年人口（65歳以上）	総数
H12	西区	26,932（16.2%）	115,406（69.3%）	24,275（14.6%）	166,676
H17		28,347（15.9%）	120,391（67.3%）	30,026（16.8%）	179,387
H22		30,181（15.6%）	126,224（65.4%）	36,540（18.9%）	193,280
H27		31,405（15.3%）	129,439（63.0%）	44,772（21.8%）	206,868
R2		30,787（14.6%）	129,670（61.5%）	50,504（23.9%）	212,211
	全市	204,334（13.0%）	1,014,233（64.5%）	354,548（22.5%）	1,603,043
		高齢者単独世帯数	単独世帯数	全世帯	*R2人口は9.1時点の推計人口。 *総数には年齢不詳を含む。年齢構成比算出にあたっては総数から年齢不詳を除外。 （資料：国勢調査、福岡県人口移動調査）
H12	西区	3,413（5.5%）	16,385（26.6%）	61,579	
H17		4,375（6.4%）	19,213（28.1%）	68,254	
H22		5,723（7.3%）	25,157（32.3%）	77,880	
H27		8,216（9.3%）	32,347（36.8%）	88,011	
	全市	80,032（10.5%）	379,499（49.7%）	763,824	

区のまちづくりの目標実現に向けた現状・課題と今後の取組みの方向性

自然を生かし、環境にやさしいまち

現状と課題	・豊かな自然をもつ西区では、都市と自然の近接という特性を活かしたまちづくりが必要。 ・「西区環境フェスタ」は、市民（環境活動ボランティア団体）と企業等及び行政（西区役所等）が企画から運営まで協働し、開催している環境啓発イベントである。市民の環境に対する意識向上につながるとともに環境活動団体の活動の発表・評価の場を担っている。令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響により中止したが、今後実施するためには、感染防止対策を徹底して行う必要がある。 ・環境活動の活発化には、活動のリーダー的役割を担う人材が不可欠であるが、人材が固定化しており、若い世代が不足している。
今後	・「西区環境フェスタ」を継続して開催し、ひとりでも多くの市民が環境活動に興味を持てる場を提供するとともに、学生ボランティア等の若い世代の気づき・育成の場とする。開催にあたっては、新型コロナウイルスの感染状況を踏まえ、開催内容及び開催方法を検討し、感染防止対策を徹底した上で実施する。 ・人材育成講座による新たな人材の発掘・育成を図るとともに、活動のノウハウ、情報提供等の支援などにより、自立した環境活動を促進する。

にぎわいと楽しさがあり、地域が支え合う、生き生きと暮らせるまち

現状と課題	・近年の住民自治意識やコミュニティへの帰属意識の希薄化に加え、昨年から続く新型コロナウイルス感染症の影響による地域活動の縮減で、新たな地域活動を担う人材の発掘が困難となり、地域活動の参加者減少・固定化の状況がさらに顕著となっている。 ・市街化調整区域では、人口の減少や少子高齢化、公共交通機関の減少などの課題が顕著な地域もあり、地域の魅力を活かしたまちづくり活動の支援に取り組む必要がある。特に公共交通機関については、新型コロナウイルス感染症の拡大により、利用者が大幅に減少している。
-------	--

今後	・地域活動支援のため、研修の継続実施と校区活動のICT活用促進を支援するとともに、自治会等への加入率向上を図るため、自治会等の組織化や近隣自治会等への加入が進んでいない地域や集合住宅等に対し、加入促進の働きかけを行う。 ・市街化調整区域のまちづくりに関して、地域主体の取組みを支援するとともに、SNSを活用した地域の魅力発信を行う。公共交通機関の利用促進については、「登山マップ」等の定期的な配布のほか、今宿地域における九州大学と連携した利用者増の取組みなどを展開していく。
----	--

大学の知と人材を取り込んだ創造性に富むまち

現状と課題	・地域と九州大学が直接、連携・交流できる仕組みや関係性が少しずつ構築されてきているが、令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響により、西区主催の子ども教室のほか、地域主催の交流事業もほとんどが中止されている。感染対策を講じながら、大学の知識と多彩な人材を地域の人材育成やまちづくりに活かす取組みが必要。 *九州大学と地域との連携・交流事業数 R2n：16事業
今後	・公民館や自治協議会に、地域との交流を希望する九州大学の学生団体の情報を「九大と地域の便利帳」等を通じて発信し、大学生と地域との自主的な交流を促進する。 ・九州大学及び学生と地域とをつなぎ、地域の活性化に向けたまちづくりの取組みを支援していく。

子どもから高齢者まで、安全で安心して暮らせるまち

現状と課題	・全校区に自主防災組織が立ち上げられ、校区や地域において自主的な防災訓練が実施されているが、校区によって防災に対する意識に温度差がある。自主防災組織が災害時に機能できるよう、校区毎に防災計画が定められているが、その内容を実行性のあるものとするために、随時見直しを行うなど、支援していく必要がある。 ・R2における西区の犯罪認知件数は、1,137件と昨年に比べ361件の減となっているものの、人口増加の著しい地域では、自転車盗などの窃盗犯が多く発生している。そのため、地域の防犯意識の高揚や地域が主体的に行うパトロール活動など、犯罪が発生しにくい環境づくりの促進が必要である。 ・身近に支援者がいない、さらにコロナ禍で、地域で開催されていた子育てサロンや子育て教室などの中止や縮小が継続されており、育児不安や育児負担感が強い子育て家庭が増加している。児童虐待を防止するため、育児不安の軽減を図り子育て家庭の孤立化防止に取り組む必要がある。 ・「地域包括ケアシステムの推進」については、感染対策を講じながらの地域ケア会議やWEB会議等の実施により、事例の検討、関係機関等との連携を図っているが、単身高齢者や認知症高齢者が増加する中、高齢者を支える多様な主体との連携や、市民啓発はますます重要である。 ・里親宅で子育て支援短期利用事業（子どもショートステイ）を利用することで、支援が必要な世帯の子どもたちが家庭的環境で過ごすことができるが、里親が不足している現状がある。「短期の里親」のなり手を増やすことが社会全体で子どもをはぐくむ地域づくりの醸成につながるため、里親制度について市民の理解を深めつつ、現状では、既に里親登録されている中から短期の里親登録数を増やしていくことが必要である。
今後	・引き続き校区自主防災組織連絡会や研修会を通じて、行政からの防災情報や他校区での取組み等を情報共有するとともに、校区防災計画が形骸化しないように、校区防災計画に基づく訓練の実施や見直し等を支援していくことにより、西区全体の地域防災力の向上に努めていく。 ・地域住民の安全で安心して暮らせるまちづくりを実現していくために、引き続き地域・警察・行政で情報共有を行うとともに、地域への防犯活動物資配布・青色回転灯パトロールカーの補助等の支援やニセ電話詐欺防止等の啓発活動に取り組んでいく。また、西区役所全庁用車（軽自動車）の青パト化を実施したことで、区職員が外勤帰庁時（主に小学校の下校時）に青色回転灯を回す機会を増やし、地域住民の防犯意識の向上を図るとともに、街頭犯罪抑止を目指す。

	・育児不安軽減のため、より身近な場所で相談ができるように区主催の育児相談会や低月齢親子教室等を増設。また、公民館等で開催する子育てサロンや育児サークルの支援強化、発達が気になる子とその親の子育てサロンの新設など、子育て家庭の孤立防止に取り組んでいく。 ・関係機関等との連携強化とともに、地域ケア会議による課題の抽出・検討、医療と介護の連携支援、I C T等を活用した市民啓発など、多面的な取組みにより、「地域包括ケアシステムの推進」を図っていく。 ・SOS 子どもの村やこども総合相談センターと連携し、コロナ時代の新しい生活様式に留意した「里親って？カフェ」や広報啓発などで、里親への理解やなり手を増やす取組みを継続する。
--	---